

令和2年3月2日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）広島叡智学園中学校・高等学校の成果と今後の取組方針について

開校してまもなく1年を迎える広島叡智学園について、当初計画していた取組の進捗や成果をどのように分析しているのか、また、充実した学習環境と学校生活の実現のための課題と解決に向けた取組について、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

広島叡智学園につきましては、開校からまもなく1年が経過しますが、生徒たちは、地域におけるプロジェクト学習や英語学習などに熱心に取り組んでおり、既に1年生全員が中学校3年生レベルの英語での会話力を有するなどの成果が表れております。

一方で、

- ・多様性あふれる学習環境の充実に向けた外国人留学生の確保や
 - ・英語で国際バカロレアの指導が可能な外国人教員の確保に加え、
 - ・全寮制での生徒の心のケアや支援体制の充実
- などが課題になっていると認識しております。

このため、外部とのネットワーク構築などにより、引き続き、外国人留学生・外国人教員の確保に努めるとともに、2月からは、生徒が安心して学校生活を過ごせるよう、地域の方々に生徒を御支援いただく仕組みである「島親制度」を構築したところでございます。

教育委員会といたしましては、引き続き、生徒たちの状況をしっかりと把握しながら、学校と一体となって、必要な支援や対応を行ってまいります。